

はじめに

平成 21 年 4 月、児童生徒の学力や学習の状況から教育及び教育施策の成果と課題を把握し、改善を図ることを目的として、全国学力・学習状況調査が行われ、本市においても、平成 19・20 年度に引き続き実施いたしました。

平成 21 年度の調査につきましては、教育委員会指導室において分析を進め、本市の調査結果から明らかとなった指導上の課題や改善の方向等を、10 月に「札幌市の調査結果の概要」として公表いたしました。その後、各領域や設問ごとに、全国の平均正答率との比較や解答類型及び無解答率の検討など詳細な分析を行い、このたび指導方法等の改善の方向等について本実施報告書にまとめました。

教科に関する調査の結果を見ると、国語における「漢字を覚え、適切に用いること」や、算数・数学における「計算の意味や仕方を理解し、正しく計算すること」など、一部の教科や領域・設問において、全国と比較して下回っているものが見られるものの、平成 19・20 年度に比べると、全国平均をやや上回りながら、かつ、おおむね上向いてきている領域が、各教科に渡って見られております。

また、児童生徒質問紙調査では、小中学校ともに、1 日のうちの読書時間について、「全くしない」という回答が全国に比べて少なくなるなど、学習習慣等において、過去 2 回に比べ上向いているものがある一方で、「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という設問において「全くしない」という回答が、これまで同様、全国に比べて多いなど、平成 19・20 年度と同じような課題が見られております。

各学校におかれましては、「札幌市学校改善支援プラン（平成 20 年 3 月）」や「平成 20 年度札幌市学習実現状況調査実施報告書（平成 21 年 10 月）」と併せて、本実施報告書を積極的に活用して、子どもたちの学習意欲を高め、自ら学び、自ら考える力などの生きる力を育成するために、日々の指導方法等のより一層の充実・改善を進めるようお願いいたします。

札幌市教育委員会

教育長 北原 敬文